

心から聞いてやる」



させることも大事です。でも「明日から先生と一緒に頑張るなあー」と明日の方向を見せられる、未来を向ける教師にならなあかんなど、このお母さんに教えられたんです。

親や教師は子どもの未来の応援団やと、教えてもらったんです。

体温のある「トバをたっぷり

六年生の担任のときに運動会で組み体操をしました。四段ピラミッドをつくりました。そのとき一番土台になってい

てもうて。おやつでも食べて、明日も頑張るなー」と言っって頭でも撫でられたら、「あつ、叱られへんかった。明日も学校へ行こう！」と、子どもはそんな気持ちになるんです。

ところで、子どもは未来と過去と、どっちを大事にすると思いますか？

子どもは百パーセント今と未来が大事なんです。過去はまあ言うたら関係ないんです。ところが大人は、どうかという過去にこだわるんです。最初の例の叱った親がそうなんです。でも「いろいろあつけど明日も頑張るなー」と言った親は、子どもと同じように未来を向いているんです。すると、子どもは頑張り始めるんです。

もちろん過去のことを反省

た子がよく崩れたんです。一番身体が大きいのに、ぐにゃつと崩れるんです。そしたらみんな崩れてしまっうんです。だから「しっかりせい！頑張れや」と大声がつい出てしま

うんです。「先生！痛いんや！先生もやってみいや！」という子どもに対して「何言うとなんや！頑張らんかい！」とケンカみたいになっってしまうんです。

この子が帰宅して親に「洗濯しておいてや」と言っって汚れた体操服を出したとき、「あんだ、えらい頑張っってんやな

」

「何でそんなん分かんねん？」

「あんだこの体操服、肩と背中が汚れとるやないか。あんだ土台になっって、この上にだれか、乗っとるんやろ、痛いけど頑張っってやー」という会話をしたようです。

次の日の練習の時からこの子は、文句一つ言わずにやるんですね。「今日はええぞー。その調子や、頑張れ」と叫ぶ僕でしたが、何でこの子が突然こんな姿になったのか、その時はまったく分からなかつたんです。

一年、二年の時はお父さん、お母さんはわりと寛大なんです。転んでも、バトンを落と

見えて、一生懸命手を振って走っているのがよう分かったわ。あんだ頑張り屋さんやな。それに、あんだ準備係やったんやな。旗が倒れたらすぐ直している、あんだのきびきびした態度、見ていたで。転げた子がいたらその子の所に駆け寄っって、お尻をはたいて、『行けー！』って言うたやろ。あんな姿見て涙出てしもうたわ。あんだは優しいええ子やな」と言っった親がありました。こういう言葉が、体温のある言葉です。

また、運動会では、まず、入場門で緊張している子どもの顔を見てやっってほしいんです。

そして、運動会が終わっってからも見ててください。みんな緊張っって後片付けをします。一年生が持てないものを、横から「持ってやるわ」と言っっている姿。いろんな子どもの姿があるんです。

子どもたちは思春期になったらやっぱり、足元がふらつきます。そんなときお父さん、お母さんが何か言っくと、「うる